

タル理由ヲ明カニシタリ「ドーズ」大使トノ右會談ハ同時ニ大統領ニ於テハ主トシテ同大使ヲ海軍問題ノ解決ニ當ラシムルモノニアラサルカトノ印象ヲ與ヘタリ

第二節 英米内交渉我方參加方ニ關スル提議

第一項 「ドーズ」大使ノ日英米三國交渉案及我方ヨリノ主動的提案總論

六月二十一日米國國務省ハ駐白大使「ギブスン」ヲ來週倫敦ニ派シ「ドーズ」大使ト軍縮問題ニ付協議シ特ニ聯盟軍縮準備委員會ニ於ケル同問題ノ現狀ヲ報告セシムルコトトセル旨發表セルカ六月二十三日「ドーズ」大使ヨリ「ギブスン」明夕「ロンドン」到着軍縮問題ニ關シ次ニ執ルヘキ手續ヲ協議スヘク二十五日ニハ更ニ「マクドナルド」首相ト會見ノ約アルニ付其以前ニ協議シタキコトアリ」ト申越シタルヲ以テ松平大使ハ二十四日「ドーズ」大使ト會見シタル處同大使ハ「スチムスン」國務長官ヨリ「ギブスン」ヲ派遣スヘキニ付篤ト協議ノ上軍縮問題ニ付執ルヘキ手段ヲ申出アリ度キ旨申越セル書翰ヲ示シ「尙自分ノ考トシテハ海軍作製ノ表ノ來ルヲ待タス此ノ際「マクドナルド」首相ト大體ノ事ニ關シ話ヲ進メタキ處英米ノミニテ話ヲ開始スルヨリ貴大使モ列席セラレ如何ナル方法ヲ執ルヤニ付寧ロ日本側ヨリ發案セラルルコト都合好シト思考ス例ヘハ假リニ自分ヨリ何等カ案ヲ出セハ或ハ國ヲ賣ルモノナリトノ批難ヲ起ス虞モアリ英國側ニ於テモ亦同様ノ不便アルニ付寧ロ日本ヨリ「イニシアチブ」ヲ執リ「サジェスト」セラルコト然ルヘキカト思考ス然ラハ日本ノ「プレスティジ」ノ上ヨリ見ルモ都合ナルヘキカト思考セラル」ト述ヘ同時ニ國務長官ニ發シタル電報ヲ讀ミ聞カセタルカ其ノ要旨ハ英米交渉ニ松平大使ヲ參加セシムルコト然ルヘキ旨記載シアリタリ依テ松平大使ハ其好意ヲ深謝シ「右ハ頗ル重大ノ義ニシテ實ハ先般御話ノ筋ハ一々報告シ居ルモ政府ヨリ何等本使ノ心得トナルヘキコトヲ申來ラサルニ付右ノ御話ニ對シテハ自分一己トシテ何等回答致シ難キニ付早速本省ニ請訓スヘシ」ト述ヘタル處「ドーズ」大使ハ「右ハ全ク自分丈ノ思付ニ付何レ「マクドナルド」首相トモ相談ノ上更メテ協議スヘシ」ト述ヘタリ尙松平大使ハ「日本ノ「サジェス

ト」スヘキ方法トハ如何ナルコトヲ意味セラルルヤ」ト問ヒタル處「ドーズ」大使ハ「自分モ何等思付ハナシ先ツ「ギブスン」カ來英シタル上種々話ヲ聞キ然ル上「ギブスン」ト共ニ貴大使ヲ訪ヒ先ツ下相談ヲ致スヘシ「マクドナルド」首相ニハ明二十五日「ギブスン」ヲ伴ハスシテ會見ノ積リナリ「ギブスン」ハ自分ノ必要ト認ムル丈「ロンドン」ニ置ク積リナリ佛伊トノ關係ニ付テハ餘程注意ヲ拂ハサルヘカラサルモ最初ヨリ共ニ入レテ話ヲスルトキハ徒ニ議論ヲ生シ面白カラスト考フ假ニ協議カ日英米三國間ニ成立セリトセハ佛伊ノ參加ハ望マシキモ若シ面倒ノ存スル場合ニハ三國限ニテ條約ヲ成立セシムルモ可ナリト思フ」ト言ヒ尙松平大使ハ本日ノ新聞ニハ「ニューヨーク」通信ニ日、英、米、佛、伊ノ海軍專門家會議今秋「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラルヘシトノ情報ヲ掲ケ居ルモ右ハ根據アリヤト尋ネタル處「ドーズ」大使ハ「馬鹿氣タル妄説ナリ」トテ一笑ニ附シタリ

尙「ドーズ」大使ハ右會談ノ際海洋自由問題ニ付過日「ロッシーマウス」ニ於テ「マクドナルド」首相トノ間ニ作成シタル覺書ヲ示シタルカ其ノ要旨ハ海洋自由問題ヲ軍縮問題ト同時ニ議論スルコトハ混雜ト遲延ト來スヘキニ付海洋自由問題ノ討議ハ後廻シトシ先ツ重要ナル軍縮問題ヲ提議スヘシト云フニアリタリ

第二項 右ニ對スル松平大使所見及請訓

上述ノ如キ「ドーズ」大使申出ニ對シ松平大使ハ左ノ通其ノ所見ヲ具申シ右ニ對スル帝國政府ノ訓令ヲ求メタリ

「「ドーズ」大使ノ態度ハ最初ヨリ極メテ率直ニシテ日本ニ對シテ特ニ好意ヲ示シ居ルコトハ累次ノ電報ニ依リ御承知アルヘキ通ナルカ右申出ハ果シテ米國政府ニ於テ同意シ來ルヘキヤ又「マクドナルド」首相ニ於テ承知スヘキヤ本使ニ於テ疑ヒ居ルモ假ニ双方共同意シ改メテ本使ニ參加ヲ求メタル場合ニ如何ニ處スヘキヤ御回訓煩ハシ度右ニ關シ左ニ心付ノ點御考慮ニ入レタシ

一、「ドーズ」ノ考ニテハ會議ノ形式ニ依ラス唯「マクドナルド」首相ト「ドーズ」ハ是迄「ヘンダスン」外相ヲ出シ抜キ居ル形トナリ居リ稍々機微ノ點アルヲ以テ矢張り外相モ相談中ニ入ルルコトナルヘシト云ヘリ」同大使「ギブスン」

及本使ト非公式ニ打明ケテ爲ス積リノ如キモ右ノ如クセハ假令本使ノ立場ヲ英米間ノ仲裁役ノ如キモノトシテ説明スヘキモ佛伊ノ感情ヲ害スル虞アルヘシ

二、「ドーズ」ノ考ヘ居ル如ク日本側ヨリ初メニ英米爭點ノ解決案ヲ提出スル如キハ事實困難ノ事ト思ハル双方行詰レル上妥協ヲ見出ス事ハ不可能ニ非サルヘシ

三、萬一本使參加ノ要求アリ又政府ニ於テ之ニ應スヘキ御命令アル如キ場合ニ於テハ一刻モ早ク軍縮問題ニ關スル政府ノ御方針ヲ承知シ置ク必要アリ「ジュネーヴ」會議ニ於ケル全權ヘノ御訓令ハ當時在米大使館ニ御通報ナカリシ爲本使ニ於テハ承知シ居ラス

四、本件カ如何ニ發展スヘキヤ即チ軍縮會議ヲ開催セス單ニ在英外交官ノ話合ニ於テ大體ノ話ヲ定メ其ノ見込立チタル上ニテ形式的ノ會議ヲ催スヘキヤ等ハ未タ「ドーズ」大使ニ於テモ何等確タル考ナキ如キモ同氏ノ性格ヨリ見テ一氣呵成ニ事實上ノ解決ヲ成立セシメ度ク焦慮シ居レル如ク見ユ依テ若シ本使ニ於テ參加スル如キ場合トナラハ「ジュネーヴ」會議ノ様子ヲ承知シ居ル佐藤公使ノ來英援助ヲ得度ク又差當リ海軍専門家ノ援助ハ當館付武官ハ勿論在佛加藤少將ニ待ツコトト致シ度ク（海軍省ニテハ右ノ如キ考ヲ有スルモノノ如ク承知ス）其ノ來英ノ時機ニ關シテハ本使ニ一任セラルレハ好都合ナリ

第三項 「ドーズ」大使ノ松平大使議長説提議及右ニ關スル請訓竝ニ

帝國政府ノ對軍縮方針ニ關スル請訓

六月二十五日松平大使ハ「ドーズ」大使ノ求メニ依リ前夜着英セル「ギブスン」ヲ交ヘ會談セル處「ドーズ」大使ハ「本日午後五時「マクドナルド」首相ト會談ノ筈ニ付其ノ前協議シタシ」トテ第一項記載ノ話ヲ更ニ具體的ニ語リタリ即チ同大使ハ「未タ「スチムソン」長官ヨリ昨日讀聞カセタル電報ノ回答ナク且「マクドナルド」首相カ如何ナル考ヘヲ有スルヤ解ラサルニ付此ノ話ハ全ク假リノ（fictitious）話トシテ爲ス次第ナルカ「マクドナルド」首相トノ商議ニ於テ英國

側カ「リード」スルモ亦米國側カ「リード」スルモ工合惡シキニ付貴大使ニ於テ議長（chairman）ノ地位ヲ取ラレン事ヲ自分ハ希望ス日本ハ英米ノ爭議ノ關スル限リ公平ノ立場ニ立チ得ルヲ以テ其ノ間ニ於テ「イニシアティブ」ヲ執ラレン事ヲ希望ス尤モ「マクドナルド」首相ハ内政ノ關係上自分カ主動的地位ニ立ツ事ヲ主張スルヤモ知レサルモ自分ハ矢張り英米ノ均勢上寧ロ日本ニ於テ主動の立場ヲ取ラル事然ルヘシト思考ス」ト述ヘタルニ付松平大使ハ「其ノ申出ハ大イニ多トスルモ未タ前電ニ對シ本省ヨリ返電ニ接セス又斯ノ如キ立場ニ經驗少キ本使トシテハ其ノ責任ノ重大ナルニ鑑ミ假令「テンタティブ」ニモ之ヲ承諾スル事ヲ躊躇スル」旨述ヘタル處「ギブスン」モ傍ヨリ日本ノ軍縮ニ對スル穩健ナル態度ヲ述ヘテ頻リニ稱揚セリ依テ松平大使ハ「「ジュネーヴ」ニ於テ日本ハ誠意英米ノ間ニ立チ出來得ル丈ケ妥協ヲ試ミタルニ願ミ本使ニ於テモ必要ニ應ジ英米主張ノ接近ヲ計リ軍縮ノ目的ヲ達スル事ニ對シテハ出來得ル丈ケ努力スヘキモ責任アル議長ノ地位ヲ受クル事ハ甚タ困難ノ事ト思考ス何レニセヨ其御意嚮ハ本省ニモ報告シ又貴大使ト「マクドナルド」首相トノ話ノ發展ヲモ見サルハカラス尙昨日御話アリタル中日本側ニ於テ主動の提案ヲ希望スト云ハレタル事ハ今日迄知レ居ル英米ノ異リタル主張ニ對シ日本側ヨリ直ニ妥協案ノ提出ヲ意味セラレタル次第ナリヤ」ト尋ネタル處「ドーズ」大使ハ「夫レハ第二段ノ問題ニシテ先ツ差當リハ議長トシテ話ヲ進メル様ニ運ハルル事ヲ希望ス」ト述ヘタリ

茲ニ於テ松平大使ハ「右談話ヨリ考ヘ英國内ニ於テ商議ヲ爲ス以上假リニ議長ノ如キ者ヲ必要トスレハ先ツ「マクドナルド」首相ニ於テナル事順ト思ハルカ今日迄軍縮ニ關スル米國側ノ主動の立場ニ願ミ「ドーズ」大使ニ於テ之ヲ避ケントスルモノノ如ク尤モ強ヒテ「マクドナルド」首相ニ於テ之ヲ主張スルニ於テハ米國側ニ於テ本使ノ議長説ヲ固執スル事ハナカルヘシト思ハル」トノ感想ト共ニ重ネテ本件ニ關シ請訓シ來レリ

尙松平大使ハ帝國政府ノ軍縮ニ對スル方針殊ニ主力艦以外ノ比率問題ニ關シ五—五—三ノ適用ヲ斷シテ承認セサルノ方針ナリヤ又ハ若シ然ラハ何ノ程度迄ノ増率ヲ最低ノ率ト決意スルヤ其他英米ト我方ノ利害反スヘキ事ニ於テ我方ノ飽迄主張スヘキ點アリヤ等ニ付「ドーズ」大使ト極メテ隔意無キ話ヲ爲シ居ル際時ニ機會ヲ見テ豫メ同意ヲ取り付ケ置クコト望マ

シト思考スルニ付其實行ノ場合ハ全然同大使ノ裁量ニ一任セラルルコトトシ兎ニ角至急右ニ對スル政府ノ方針ノ回示ヲ得度キ旨併セテ請訓シ來レリ

第四項 本件ニ關スル佐藤聯盟事務局長意見

上述「ドーズ」大使ノ提議及松平大使請訓中佛伊兩國トノ關係ニ對スル顧慮ニ關シ佐藤聯盟事務局長ハ松平大使ニ對シ左ノ通其ノ意見ヲ進達セリ

「三國限リニテ內協議ヲ開始シ佛伊ヲ除外スルハ頗ル機微ノ問題ナルコト貴電中御懸念ノ通ニテ殊ニ本官トシテハ過般ノ軍縮準備委員會中英米單獨協定ヲ避ケンカ爲佛ヲ我道連トシタルノミナラス互ニ情報交換ヲ內約シタル關係上一層具合惡シク感セラルル次第ナルモ去リトテ英米間內交渉ニ日本カ招請セラルルハ本邦トシテハ素ヨリ望マシキコトナリ去ル準備委員會中及ハス乍ラ本官ノ努力シタル所（第一章第五節第三項參照）モ實ハ英米間內交渉ニ何トカシテ割込マントシタルニ外ナラサルカ故ニ此ノ行懸ヨリスレハ「ドーズ」大使ノ招請ハ我トシテ最も歡迎スヘク佛伊ノ參加ナト願ル餘地ナキカ如シ

就テハ英米ヨリ更メテ閣下招請ノ場合貴電中ノ懸念ニ對シテハ我ノ三國間非公式會合ハ全然下打合セニシテ討議ノ基礎見付カリ次第直ニ佛伊ニモ通報スル諒解ノ下ニ之ヲ行ヒ此ノ旨豫メ佛伊ニモ通牒スルコトスル方從來ノ經驗ニ徴シ不必要ノ疑惑ヲ避ケ軍縮全般ノ成功上最モ望マシキコトト存セラル（以上加藤海軍代表トモ協議濟）

同時ニ佐藤局長ハ日本側ニテ主動的地位ニ立チ英米間ノ妥協ヲ圖ラレ度トノ「ドーズ」大使ノ希望ニ對シテモ左ノ通其意見ヲ松平大使ニ進達セリ

「大臣宛貴電ニ依レハ「ドーズ」大使ハ「ギブスン」ノ約束セル海軍力比較案ノ到達ヲ待タス英、米、日三國ノ政治家間ニテ話ヲ始メタキ意嚮ニテ殊ニ出來得レハ日本側ヨリ解決案ノ提出ヲ希望シ居ルモノノ如キ處「ドーズ」大使ノ意嚮力若シ

(一) 英米爭點ノ解決案提出ニ在リトセハ勿論不可能事ニシテ千九百二十七年ノ三國會議カ如何ニシテ英米間ノ「パリテ」ヲ測定調節スヘキヤノ問題ニ到達シ解決案ヲ見出し得シテ決裂セル歴史ニ顧ミ此ノ問題ヲ解決セサル限リ英米間ニ妥協成立スヘシトハ考ヘラレス「ギブスン」ノ口約セル比較案ハ即チ此ノ難問題解決ノ新ナル試ミニ外ナラス該案ノ研究以外ニハ目下ノ處他ニ名案モ無キ實狀ニシテ本邦側ヨリ英若クハ米ノ爲ニ解決案ヲ提出スル如キハ到底不可能ト云ハサルヘカラス

(二) 然ラスシテ海軍制限ノ促進上今後執ルヘキ方針如何ニ關シ日本側ノ意見申立ヲ希望スル次第ナリトセハ之ハ別問題ニシテ卑見ニ依レハ政治的ニ問題ノ解決ヲ計ラントスルモ事實上ノ根據ナクシテ之ヲ爲スヲ得ス米英、米日間海軍力ノ均衡ハ正ニ事實ノ問題ナリ即チ專門家ノ作製スヘキ海軍力ノ測定及比較案ハ政治家ノ裁決ニ至ル前提條件ナリ此ノ故ニ先ツ專門家ヲシテ比較案ノ協定ニ努力セシメ然ル後政治家ノ會合ヲ催シ關係國家ノ均勢ヲ決定セシムヘク順序ヲ顛倒スルハ成功ヲ困難ナラシムル所以ト信ス故ニ帝國政府ニ於テ獨自ノ制限案ヲ有セラルル場合ハ格別然ラサレハ豫定ノ通米國案ノ提案ヲ促シ關係國政府ニ充分研究ノ餘裕ヲ與ヘ然ル後政治家ノ會合ヲ催スヲ順序トスヘシ尤モ米案ノ提出アリトスルモ今日ノ處之ニ對スル判斷批評ハ本邦ニ關スル限り東京ニ非サレハ之ヲ爲シ得サルコト勿論ナリ（以上加藤海軍代表承知）

第三節 關係國代表者間非公式相談會ニ關スル提議

第二項 「マクドナルド」首相ノ關係國代表者間非公式相談會開催方提議

六月二十七日松平大使ハ「ドーズ」大使ニ會見シ前顯「ドーズ」大使私案ニ關スル「マクドナルド」首相トノ會談ノ模様ヲ尋ネタル處「ドーズ」大使ハ「マクドナルド」首相ハ曩ニ聯盟軍縮準備委員會ニ於テ本問題ハ各國政府間ニ於テ考慮スルコトトナリ居レル點ニ言及シ今後如何ナル措置ヲ採ルヘキヤヲ協議スル爲七月二十二日ヨリ當地ニ於テ關係國代表者間